

司書合格体験記

文学部哲学科 安田 さくら

この度、九州大学附属図書館に内定をいただき、2021年4月より職員として働かせていただくことになりました。大学図書館を志望し、採用に至るまでの経緯を述べさせていただきますと思います。

私は大学卒業後も図書館司書になるべきか悩み続けていました。司書になりたいという方だけでなく、司書になるかどうか迷っている方にも参考になれば幸いです。

1. 大学図書館を志望するまでの経緯

幼少期から本が好きで、高校生の時に司書になりたいと漠然と思うようになりました。しかし大学入学後に、司書として正規職で働くことの難しさ、本が好きというだけでは通用しない司書という仕事の多様な側面を知り、司書になりたいという気持ちは萎んでいきました。転機になったのは大学3年生の時の図書館実習でした。大阪府立中之島図書館で充実した実習をさせていただき、憧れだけでなく職業として司書を考え始め、大学3年生の11月から学内の公務員講座を受講し始めました。

それでもまだ絶対に司書になりたいという強い気持ちは持てず、就職活動では教育関係の民間企業や大学の事務職員の選考を主に受けていました。働くことに対する覚悟も、この職種、この企業で働きたいという強い気持ちもなく、中途半端な気持ちで就職活動をしていたため、民間企業の選考も司書の採用試験も上手く行きませんでした。

幸い、ご縁があって契約職員として学校図書館で働かせていただくことになりましたが、実際に司書として働きながらも、これから先どういう職業で生きていくか悩み続けていました。採用試験の勉強は続けながら、県庁や市役所の行政職、独立行政法人の事務職員、大学の事務職員などの説明会に行ったり、選考を受けてみたりしました。その活動の中で自分は総合職に向いていないと感じ、長く働くということも考えて専門職として生きていきたいと思ったこと、研究や学問に携わる職業に就きたいと思ったことから、就職して3年目を迎える時には大学図書館の職員を志望するようになりました。

悩みながらも行動し、たくさんの可能性に当たることで、自分の適性と意思をはっきりさせることができたと思います。

2. 教養試験について

自治体にもよりますが、司書の採用試験は教養試験と呼ばれる一般の公務員と共通の試験と、図書館情報学の専門試験の2種類が課されることが一般的です。

詳しい勉強法については過去の合格体験記も大変参考になるとと思いますので、ぜひ見てみてください。私からは、大学在学時と就職してからの勉強法と、教養試験の勉強で大切だと思ったことを述べさせていただきます。

大学在学時は学内の公務員講座で教養試験の勉強をしていました。勉強を始めるのが遅かったのと、民間企業の選考をメインにしていたため、数的処理と法律の勉強しかしていません。講座かweb授業で講義を受けて該当箇所の問題集を自力で解く、インプットとアウトプットの繰り返しが主な勉強方法です。

就職してからは終業後に大学の図書館に行き、ひたすら問題集を解いていました。とって全く勉強をしない月があったり、席についてもスマホをいじって終わった日もありました。

勉強に対する熱量は低いまま、ただ何かをしなくてはという意識だけでダラダラと勉強を続けていました。

教養試験は科目数がとても多いため、「広く浅く」が一般的な勉強方法ですが、勉強時間は限られているので、ある程度の選択と集中も大事かなと思います。私は得意だと感じた数的処理と社会科学を勉強し、人文科学と自然科学に関してはほとんど勉強していません。自治体や館種によって、教養試験の問題構成には若干差があります。過去問を見て、志望する図書館の出題傾向を把握してから勉強するのも良いかなと思います。国立大学法人に関しては、実務教育出版が出版している『国立大学法人等職員採用試験攻略ブック』が傾向の分析にとっても役立ちます。

数的処理は多くの方が苦手とする教科ですが、教養試験の4割ほどを占めるので避けては通れません。幸い私は数学が得意だったので、数的処理の問題集は最終的に3周し、実際の試験では数的処理の問題はほぼ全て解答できました。苦手意識がある方ほど、問題集を解くことよりインプットの質にこだわるのが大事かなと思います。予備校や学内講座を検討したり、良い参考書を探してみてください。

社会科学に関して、とくに国立大学法人については、時事問題をきちんと勉強しておくのが良いかなと思います。法律や経済の設問でも時事の知識が問われることが多くありましたし、公共図書館の面接や小論文でも時事の知識があると役立つと思います。時事問題の勉強法として、株式会社学情が運営している「朝日学情ナビ」というサイトでは、朝日新聞の記事から1週間のトピックをまとめた「週間ニュースまとめ」というコーナーがあります。私は毎週そのコーナーを印刷してノートに貼り、分からない単語は調べて書き込むようにしていました。『公務員試験速攻の時事』という参考書も、コンパクトにまとめた良い参考書だと思います。

問題集を解く際はその科目の分野の早見表を作り、分野ごとに正答率を記入することで自分がどの分野が苦手かを効率的に把握することができました。分野の早見表を作って得意分野と苦手分野を把握するのは、どの科目でも有効な勉強法だったと思います。

教養試験では7割、できれば8割取ることを目標にしていたのですが、実際の試験での手応えは6割ほどでした。年にもよると思いますが、私はそれで合格しているので、過去問が全然解けなくても諦めないでください。

教養試験対策に関しては独学という手段もありますが、私は学内講座を受けてよかったと思っています。受講者に配られる非売品のテキストがとても分かりやすかったこと、web授業の講師のレベルが高かったことが主な理由です。またweb授業だと分からないところを繰り返し見られて便利でした。

講座受講者に向けて開催される、講師への個別相談会はぜひ活用すべきだと思います。もちろん司書の採用試験の詳しい相談は出来ませんが、教養試験の勉強の仕方や自治体ごとの試験の傾向などは、インターネットで調べるより遥かに多くの知識を得ることができました。学内講座の費用は予備校に通うよりかなり安いので、ぜひ検討してみてください。

3. 専門試験と面接について

専門試験については『司書もん』という市販されている問題集を解いていました。1巻から3巻まで、最終的には3周しました。司書もんの解説を読んでも分からなかった時は、市販されている図書館情報学のテキストを見るようにしました。時間がある場合は、テキストをしっかり読んでから司書もんを解くとより良いと思います。

自治体によってはHPなどに過去問が掲載されているので、出題傾向を把握すると良いと思います。国立大学法人については、電子ジャーナルや著作権に関する問題が頻出傾向にあったので、過去問を解いてインターネットで関連する最近の法令などを調べるようにしました。

また、国立国会図書館が運営している「カレントアウェアネス・ポータル」というサイトをできるだけ毎日見て、大学図書館に関するニュースで気になったものを印刷してノートに貼っていました。分からない単語を調べて書き込んだり、そのニュースに関連する法令の概要を把握することは試験勉強に大いに役立ったと思います。

公共図書館の採用試験も受けましたが、試験でも面接でも、他の公共図書館の取り組みや動向を尋ねられることがありました。自分が受ける館種の最新の動向を知ることが、試験対策にも面接対策にも有効だと思います。ぜひ「カレントアウェアネス・ポータル」を有意義に使ってください。

ESの添削と面接対策については、京都市にある「京都新卒応援ハローワーク」という施設を利用していました。無料で利用でき、学内のキャリアセンターでは実施していない模擬面接をしてもらうことができます。ESにしても面接にしても絶対的な正解はないので、1つの志望先につきESの添削は3回、模擬面接は2回までと決めて利用していました。毎回違う人に見てもらうことで、さまざまな視点からの意見がもらえてとても良かったと思います。

在学時の就職活動がうまく行かなかった原因の1つに、自分の意見を伝えることに必死で、相手がどう受け取るかの意識が欠けていた点があると思います。ESと面接は誰かに見てもらい、客観的な視点を獲得することが大事だと思います。

面接まで進んだ図書館については、徹底的に調べました。たとえ聞かれることがなくても、ここまで調べたのだから何を聞かれても大丈夫！という自信は面接時の余裕に繋がります。私は模擬面接で「話し方から熱意が伝わりにくい」と言われることが多かったので、事前調査をしっかりしていることで熱意を示したかったという意図もあります。

規模が大きな図書館であればHPに要覧や年報が載っているので、それを見ていました。同志社大学の卒業生が居られる図書館であれば、原田先生、佐藤先生にご紹介いただき、仕事についてお話を伺うこともありました。筆記試験の際に実際に図書館を訪れてパンフレットをもらったり、特色のあるサービスや館内の雰囲気を確認したりもしました。

公共図書館だと、その図書館がある土地の特色（主要産業や世代別人口比など）も把握しておくようにしました。知事の主要政策を見ると、その土地の弱点や長所が分かりやすかつかめると思います。面接でその土地のイメージや理解度を問われた時に論理的に答えることに役立ちましたし、論文試験でもその知識を活かせました。

出身地以外の図書館を受けるときに悩むのが志望理由ですが、年報や事業計画書をよく読んで力を入れていたり特色のあるサービスを把握し、そのサービスがあるからこの図書館を志望したと言うようにしました。ただ、それだけでは説得力に乏しかったように思います。もう1つ志望理由が言えると良いかもしれません。

また、出身地以外の図書館を受けるときは、複数採用するところの方が受かりやすいと感じました。たとえ実力が同程度でも、出身者が言う志望理由と他県出身者が言う志望理由では説得力が違ってきます。過去の採用実績などを見て比較的倍率が低い自治体を狙うのも良いかと思っています。

4. 最後に

長々と試験対策について書きましたが、上記のような勉強を毎日きちんと続けていたわけではありません。怠けてしまう自分に苦しんだり、司書合格体験記を読んでは、司書になりたいと強く思えない自分に落ち込む日々でした。しかし、諦めずにもがき続けたことで、希望する就職先に内定をいただくことができたと思っています。この合格体験記が、司書を志望されている方にも、司書になるか迷われている方にも参考になれば幸いです。

最後になりましたが、同志社女子中学・高等学校の図書・情報センターの先生方には、未熟

な私を3年間暖かく見守っていただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、司書課程の原田先生、佐藤先生には卒業後も大変お世話になり、ありがとうございました。皆様の今後のご活躍をお祈り申し上げます。